

本報告はドナルド・キーンによる評伝『明治天皇』を中心に、明治天皇のイメージを考察するものである。

明治天皇のイメージは、時に曖昧で具体的な印象に欠けるように思われる。日本、海外を問わず、明治天皇が日本史上最も偉大な統治者である、と漠然と信じる者は大勢いる。しかし面白いことに、明治天皇という人物についての具体的な知識は、その四十五年にわたる治世の中の輝かしい業績一つを思い起こすのにも苦勞するほど不足している。公式記録である『明治天皇紀』をはじめ、各種資料が十分に揃っているにもかかわらず、明治天皇という人物に関する一般的な知識は不足しているというのが現状である。

明治天皇に関する伝記作品、批評作品は数え切れないほどあるが、そのほとんどの作品が、様々な逸話を持ち出しながら、「人間的」側面を持つ明治天皇のイメージを作り出すことに力を費やし、或いは明治天皇の存在を数々の功績に値しない「無」の存在として、また或いは臣民の幸福に無関心である冷酷無比な暴君として明治天皇のイメージを構築している¹。膨大な数の作品の中で「明治天皇という一人の人物の信用できる肖像を書き出すことに成功した作者は残念ながら皆無に近い」²、とキーンは語っている。評伝『明治天皇』の中で、キーンは、「何世紀にもわたって西洋との接触をほとんどすべて拒否した国に生まれながら、その国が世界の列強の一つへと変貌を遂げていくばかりでなく国際社会を形成する一国として成長していく姿を生涯を通じて見守ってきた一人の人物——明治天皇を発見する」³こと——つまり明治天皇のイメージの再構築を試みた。

本報告ではキーンによる明治天皇イメージの再構築を、人間としての明治天皇、明治大帝としての明治天皇、現人神としての明治天皇、という三つの側面にとらえ、その明治天皇イメージ再構築の軌跡を追う予定である。また、明治期及びそれ以後に他国（西洋、中国）で構築された明治天皇のイメージを確認・分析し、それらのイメージとキーンによって再構築された明治天皇のイメージとの関係に注目しながら、比較・分析を試みたい。

¹ ドナルド・キーン『明治天皇』（新潮社、2007年、頁19-20）

² 同注1、頁19

³ 同注1、頁26